

2015 年 5 月 13 日（水）

決算説明会 Q&A

Q： 2015 年度（FY15）の研究開発費が年度で 100 億円増加しますが、この内容は何でしょうか？

A： OLED とシートディスプレイの研究開発投資が増加しています。

Q： 資料 P15 の売上見込みに関し、FY15 第 1 四半期（1Q）の最大顧客向け売上高が前四半期比で落ちる理由は何でしょうか？

A： FY15-1Q の最大顧客向け出荷は前回と変わらない金額を想定しており高水準ですが、FY14-4Q の出荷が想定以上に好調で上振れしたため、その金額と比べると、若干落ちるという見方となります。

Q： 最大顧客の需要見込みについて、需要期に向け生産が高まると考えられる 2Q が横ばいとなっている理由を教えてください。

A： 2Q は製品のマイナーチェンジがある中で、モジュール工程の装置組換えも予定され、横ばいになっています。ただし、需要としては引き続き旺盛で、追加需要の可能性もあります。

Q： WQHD 製品の遅れが生じた背景を教えてください。また、今後、WQHD の遅れは解消していくのでしょうか？

A： WQHD については、FY14-4Q に拡大することを想定していましたが、遅れが生じました。これは、顧客事由にて支給部品の供給に遅れが生じたことが主な要因です。1Q 以降は、現在の想定に基づき販売できるものと考えています。

Q： FY15 年度に減価償却費が増加していますが、これに新工場の分は含まれていますか？

A： 白山工場は FY16 の稼働となるため、FY15 の減価償却費増加分には含まれていません。

Q： 新工場の建設の進捗状況はいかがでしょうか？

A： 白山工場については、5 月末着工予定で、予定通り進んでいます。

Q： 中期経営目標中期目標を発表した背景を教えてください。

A： 投資家の皆様へ経営陣として目標を示すことが大事なことだと考え発表したものです。数値目標については、中期的には減価償却が終わり、コスト競争力が高まってくることから、達成は可能であると考え、このタイミングで発表しました。

Q： 中国・台湾パネルメーカーの脅威度をどのくらいと考えているか教えてください。

A： 中国・アジア向けは Pixel Eyes™主流であり、他社が LTPS のノーマルな製品を、当社の Pixel Eyes™を採用している顧客に売り込んでも、競合は起こりにくいものと考えています。また、ハイエンドの LTPS 液晶ディスプレイについては、需給がひっ迫している状況なので、大幅な価格下落は生じにくいものと考えています。

Q： 3年後の会社の姿について、イメージを教えてください。

A： 3年後には、白山工場がフルキャパシティ、茂原工場も拡張した前提で、売上高 1 兆 5 千億円くらいの売上高のイメージです。それを前提に、経営計画の利益数値をだしています。また、売上高の 30%をモバイル以外から生み出すとなると、車載向けの売上高が 2,000 億円近くのため他の新しいポートフォリオで 2,000 億円超を新規で生み出すことが必要です。

Q： 中国を中心とした、スマートフォン全体での見通しを教えてください。また、価格動向はどうでしょうか？

A： FY15 の中国向けの売上高は前年の 1.5 倍以上を目標としています。中国市場では、取引先企業ごとに好不調が四半期ごとに生じています。また、iPhone が好調で地場のスマートフォンメーカーのシェアを奪う可能性もあります。

中国向けの売上を伸ばしていく中では、Pixel Eyes™を積極的に売り込んでいますが、Pixel Eyes™を販売していく中ではカバーガラスをつけて販売する割合が増えるため、この売価増も売上高増の要因の中に入っています。

Q： 設備投資の内訳について教えてください。

A： 受取金充当分以外の自社のキャッシュアウトで行う分については、FY15 の減価償却費の範囲内です。

Q： 工場の生産能力は FY15 は増加しますか？

A： FY15 中の生産能力増加はありません。

Q： FY15-1Q の限界利益は低いとのことですが、2Q に影響が残らないでしょうか？

A： 限界利益率の低下は一過性のものと見込んでいます。

Q： WQHD の売上高比率の今後の見通しを教えてください。

A： WQHD の年度見込みは、1Q の売上高比率程度と考えていますが、スマートフォン市場でその価値が認められれば、来期以降に大きく伸びることを見込んでいます。

Q： 競合他社もインセル技術を開発しています。今年後半くらいから、競争が厳しくなるのではないのでしょうか？

A： インセル技術は、セット側とのチューニングや各種試験などを経て採用されており、製品の開発から販売までには時間がかかることから、一気に追いつかれる様なものだと考えていません。また、当社では Pixel Eyes™の次世代品の開発を続けており、性能面でも他社を引き離したいと考えています。

Q： 新工場稼働後の業界地図をどのように見えていますか？

A： 白山工場が稼働すると、JDI の LTPS 液晶ディスプレイ供給能力は、2 位の会社の約 2 倍となり、圧倒的に優位なポジションとなります。

Q： 白山工場は、特定顧客向けでしょうか？

A： 特定顧客向けの専用工場ではありません。

Q： 中期経営計画で、後工程オペレーションについて言及してあるが、戦略として見直した点がありますか？

A： 後工程オペレーションについては自動化を含めて投資を見直そうと考えています。